



まさか、この人のことを、この病名で書くことになるとは……。

志村けんさんの訃報に、日本中が悲しみにくれました。

3月29日に都内の病院で死去。享年70。死因は、新型コロナウイルスによる肺炎との発表でした。

私が、「新型コロナウイルスで、日本も早晚大変なことになるのでは……」と感じ始めたのは2月の下旬、ダイヤモンドプリンセス号の乗客から死者が出た頃です。

そこから、刻一刻と状況は変わっていききました。当初は、11年前の新型インフルエンザと比べてそれほど毒性は高くないと思っていました。感染拡大とともに毒性がどんどん強くなっているように感じています。

150 コメディアン 志村けん



新型コロナウイルスにはL型、S型の2種類があるというニュースが広まりましたが、約100種もの遺伝子変異があるそうです。2月までは高齢者などのハイリスクの人しか感染しないといわれていましたが、現在は若者や小児など全世代が続々と感染しているのは変異と関係しているのでしょう。そうした観点から、多くの命

長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

世界を変えた大スターの死

を守るためには外出を避けて、極力家でおとなしくしていただくいと患者さんや市民に、SNSを通して呼びかけ続けた3月でした。

ただ世間の多くの人が、「自分は関係ない」「自分だけは罹らない」と思っており、町医者のオッサンの御願いなどまともに取り合ってはくれませんでした。「大げさ」とか、「不安を煽りすぎ」と揶揄されたこともありました。

しかし、志村けんさんの死によって、この国の空気は一変したように思います。

何百人の医者や専門家が警告を発するよりも、一人の有名人の死が世の中を大きく変えることがある……大変悲しい出来事ですが、まさかと志村けんさんがどれほど日本国民に愛された大スターだったのかを身をもって感

じました。

今、この原稿を書いているのは4月5日(日)の夜ですが、志村さんの死から1週間、毎日毎晩、志村さんの過去の出演番組が流れており、在宅患者さんたちが、「悲しいねえ」と涙を流しながらも、バカ殿や変なおじさんのコントを見て笑っているという、不思議な現象が起きているのです。

日本全国、泣き笑いの1週間。新型コロナウイルスの恐ろしさとともに、この鬱々とした世の中に、死んだ後もまだまだ、笑いを届けてくれている志村さんは、本当にすごい芸人さんだったと思います。

人間は、悲しくて辛いときこそ、ホッとする出来事や笑いが必要です。外出は自粛してほしいですが、笑いを自粛する必要は全くありません。テレビ局にはどうかしばらくの間、志村さんの番組を流して私たちを笑わせてください。オリンピックの代わりに、ずっと。